

100名瀑踏破

そして世界3大名瀑へ

はじまりは、仕事で写真を撮らなければならない状況になり、上手になりたい一心から一眼レフで練習を始めたことに遡る。

何ごとも基本が肝心と考え、通信教育の写真講座を受講した。

被写体のテーマを絞るという課題の中で、たまたま当時、日本の滝百選(緑の文明学会出版)「日本の名瀑」の写真集が目にとまり、元々、自然の山へ行きたいという思いもあり、被写体に滝を撮ってあげば上達するだろうと考えた。

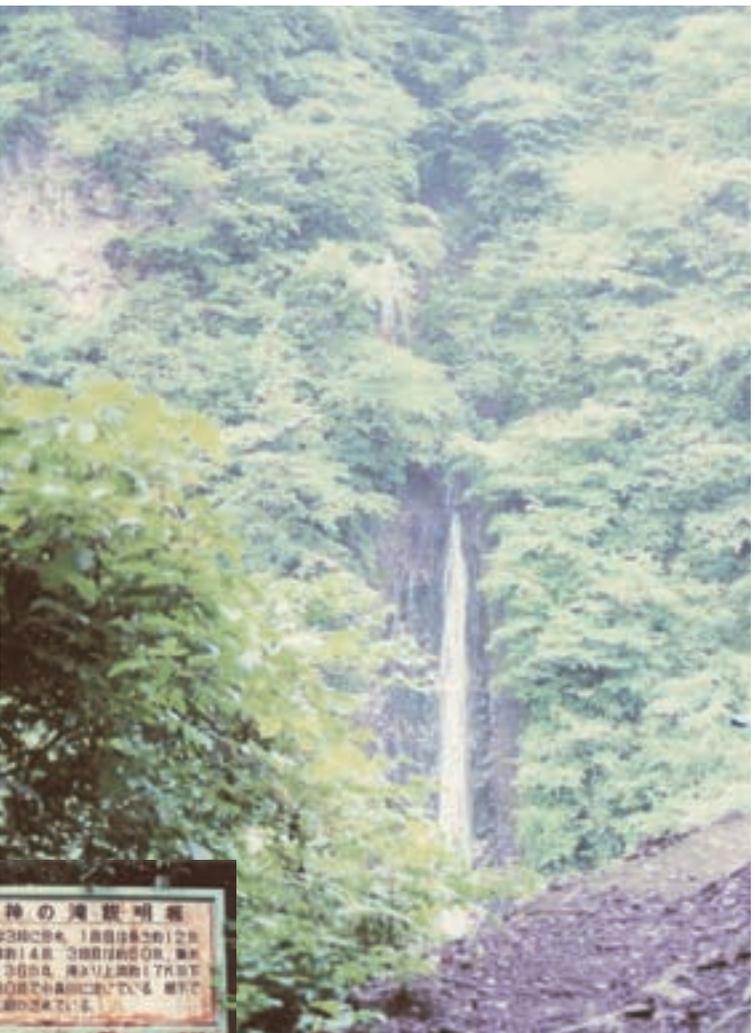
森には森林浴があるように滝にはマイナスイオン浴がある。大きな滝は躍動感があり、小さな滝には安らぎを感じる。

滝見行には、大自然の中に自分を置くことで、ストレス解消、気分転換、心の洗濯など最高の癒しが得られる不思議な魅力がある。

また、自然の恵みに感謝し、「滝を見に来てやった」ではなく「滝を見させてもらう」という感謝の念を持つことが、山から無事帰れるための儀式であると、常に心得としている。

〔1〕丸神の滝 (埼玉県)

七六m



滝撮影開始の最初の二滝。
写真撮影の実力UPに被写体として滝を選んだ。今思えば選んでしまったと言うか、途中、百とはこんなに沢山なのかと思ってしまう。反面、滝の虜になってしまった。
両神山一、七二四mの麓、小森川に注いでいる閑静な滝で、観瀑台から眺めているとベスト森林浴を感じる。

一九九〇年 七月八日
行程 四〇八km
総計 四〇八km

〔2〕袋田の滝（茨城県）

袋田の滝は別名、四度の滝とも呼ばれ、四季折々の表情が楽しめる。



一九九〇年 八月二一日
行程 三二一 km
総計 七一九 km



一一〇m

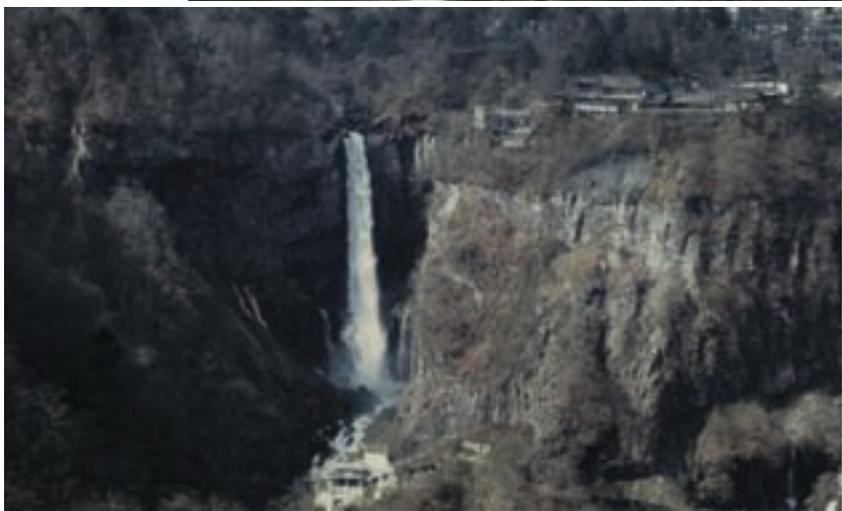
〔3〕華厳の滝（栃木県）

九七m



第二いろは坂の展望台、明智平から見る景色はパノラマである。

一九九〇年 八月一四日
行程 六五一 km
総計 一、三七〇 km

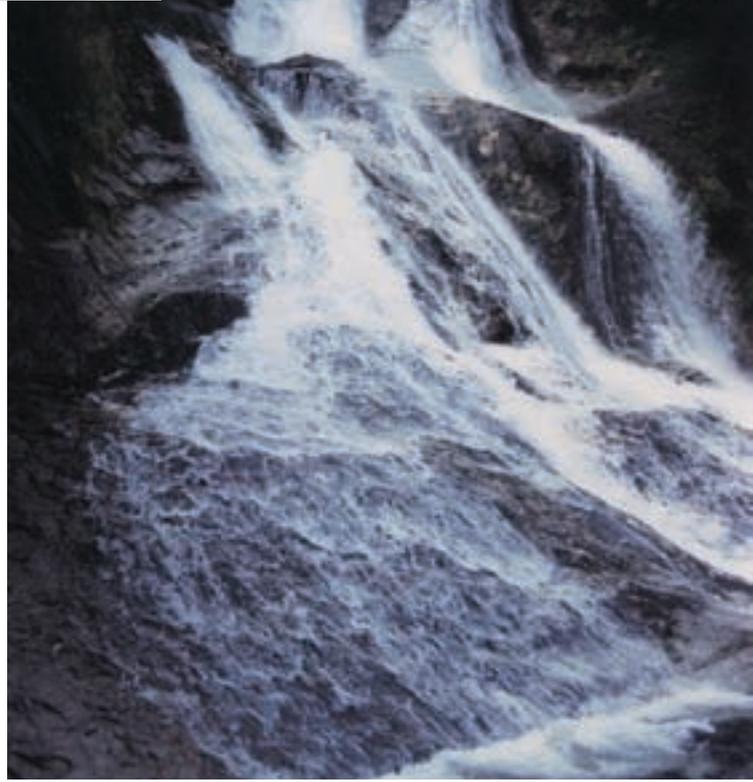


〔4〕霧降の滝（栃木県）

七五m

観瀑台の上から見る姿も美しいが、滝壺へ下り、岩を滑るように流れる水を見るのも、心和やかになる。

アカヤシオ（ツツジ科、栃木県の県花はヤシオツツジです）の花が咲く春も滝には風情がある。



一九九〇年 八月一四日
行程 六km
総計 一、三七六km

〔5〕布引の滝（兵庫県）

四三m

滝の流れを抱擁する岸壁は、陽光と採光、含水と乾燥により、藍色、淡青色、茶褐色、乳白色にもなり、変化に富んだ表情が楽しめる。



一九九〇年 九月二日
行程 一、〇八八km
総計 二、四六四km

〔6〕 払沢の滝 (東京都)

滝の水が流れ落ちるさまが僧侶の払子を垂れた様に見えることからその名がついたという。

エメラルドグリーンの滝壺が神秘的だ。真夏の夜に開催される滝まつり(八月中旬～下旬)ではライトアップされ、幻想的な世界が広がる。また、冬の氷結した滝は自然の造形美をみせてくれる。

(広報東京都第五八六号H七(一九九五)八・一 ふるさと探訪73より)



一九九〇年 九月九日
行程 一六三km
総計 二、六二七km

六〇m

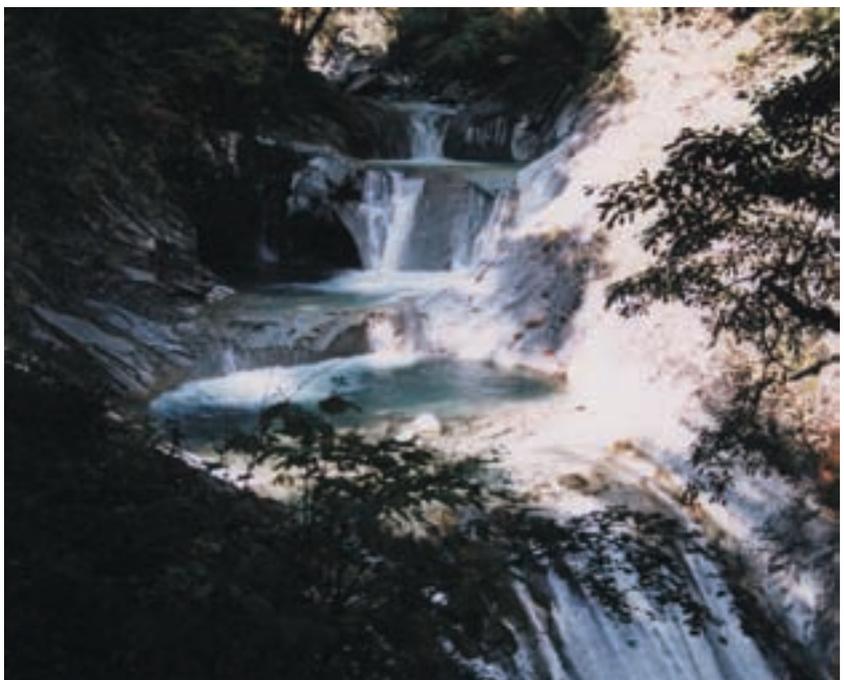
〔7〕 七つ釜五段の滝 (山梨県)



登路は溪谷歩道を、帰路は軽便軌道跡を御利用下さいという遊歩道に鉄道線路が残されていた。
秋の紅葉はとくに、とくにすばらしい。



一九九〇年 一〇月二〇日
行程 一、四五〇km
総計 四、〇七七km



五〇m

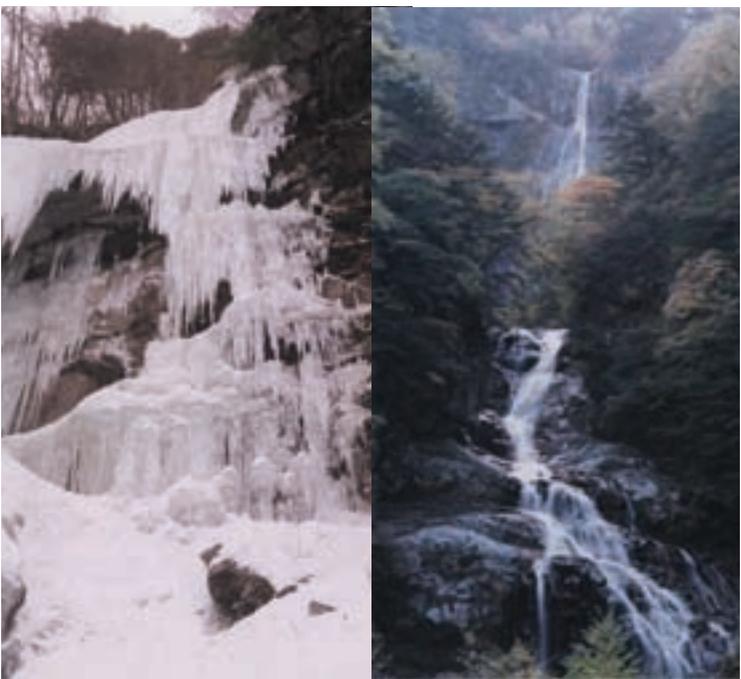
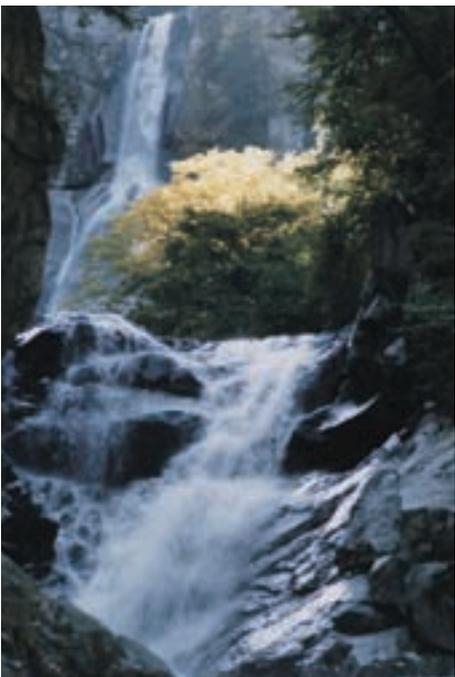
〔8〕北精神ヶ滝（山梨県）

一二一m

南アルプス鳳凰三山から流れ出して大武川へそそぐ石空川、この渓谷には大小七つの滝があり豊富な水量と鋭く切れ込んだ谷は蛇行を繰り返して「ごうごう」とこだまを響かせている。

なかでも北精神ヶ滝はこの石空川渓谷を代表する滝で落

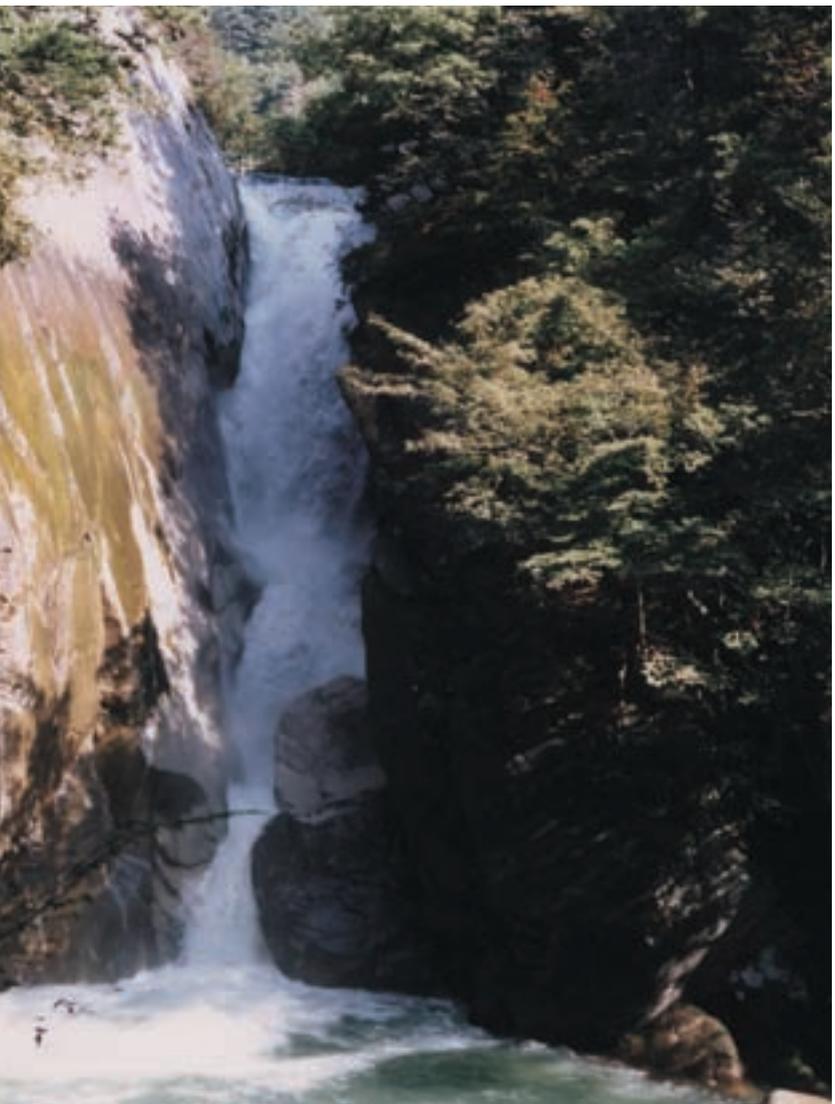
差二二メートルから一気に落ちる滝はまさに豪快である。そして冬の氷瀑もみごとである。いつかこの滝へのアプローチで崖崩れがあった。そこを通りかかった滝撮影関係者が遭遇し不帰の人となった。いつも思う、山は怖い。



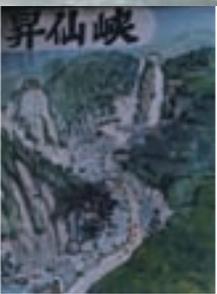
一九九〇年一〇月二〇日
行程 二四km
総計 四、一〇一km

〔9〕仙我滝（山梨県）

三〇m



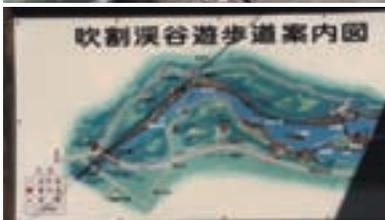
昇仙峡渓谷にかかる三段からなる名瀑。
陽光の有無により右岸の表情が落ち着いた表情をなし、また明るい表情をなし、味わいのある、見ても飽きない滝である。



一九九〇年一〇月二一日
行程 二九六km
総計 四、三九七km

〔10〕吹割の滝（群馬県）

滝の流れの水に足をつけながら、滝に吸い込まれそうになりながら見るのも迫力があるが、遊歩道の上より見る滝もすばらしい。



一九九〇年一〇月二八日
行程 三三七km
総計 四、七三四km

七m

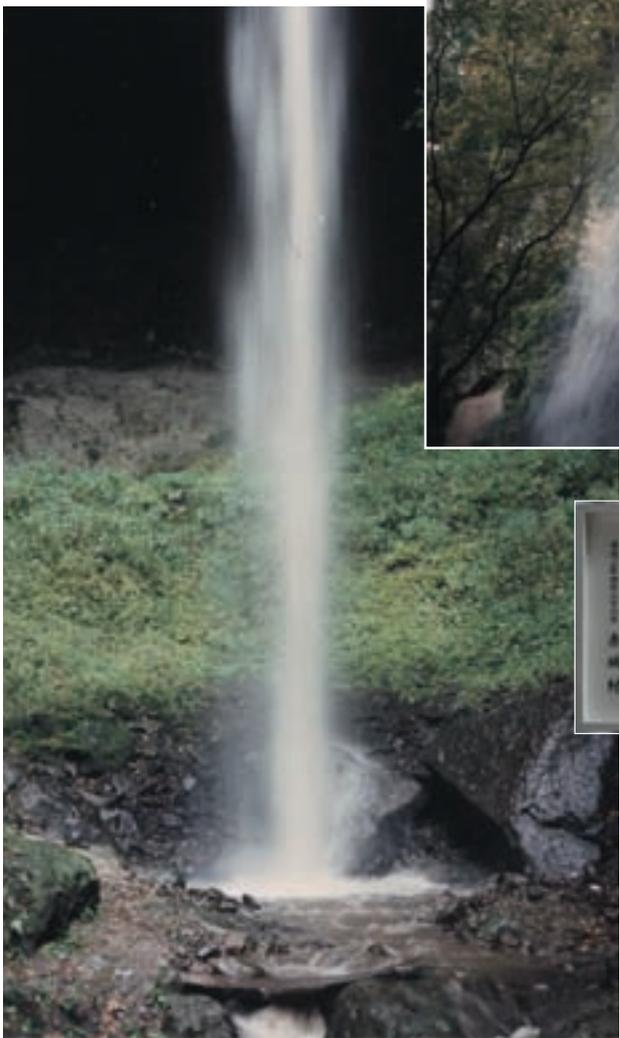
〔11〕棚下不動の滝（群馬県）



一九九〇年 一月四日
行程 二九五km
総計 五、〇二九km

三七m

石段下には棚下不動堂があり、岩窟の不動堂奥院には石造の不動明王が祀られているという滝の周囲は静寂さと仙境を感じさせる。裏見の滝でもある。



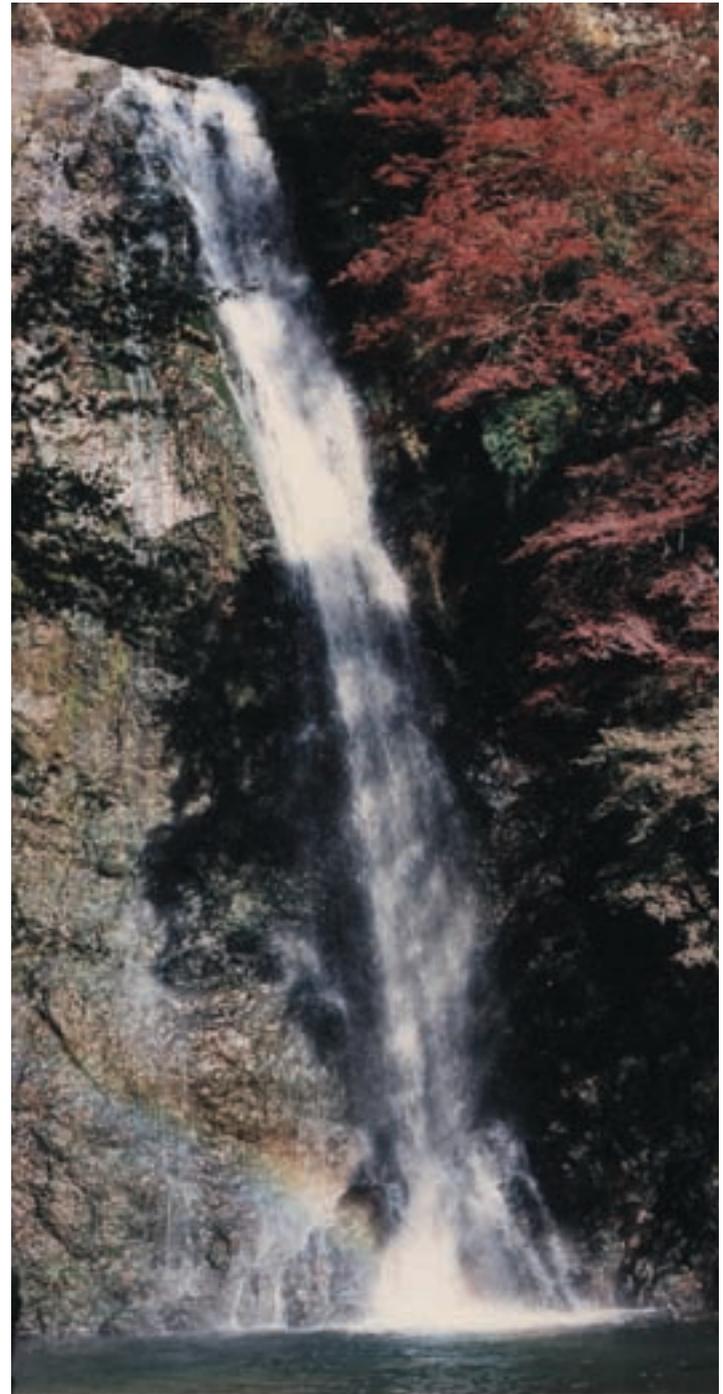
1990年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
1	7	8	丸神の滝	埼玉県	両神村、荒川水系				400	8	408
2	8	11	袋田の滝	茨城県	大子町、久慈川				310	1	311
3	8	14	華厳の滝	栃木県	日光市、大谷川				650	1	651
4	8	〃	霧降の滝	栃木県	日光市、鬼怒川					6	6
5	9	2	布引の滝	兵庫県	神戸市、生田川		1,080		0	8	1,088
6	9	9	払沢の滝	東京都	桧原村、秋川溪谷				160	3	163
7	10	20	七つ釜五段の滝	山梨県	三富村、西沢溪谷				1,440	10	1,450
8	10	〃	北精進ヶ滝	山梨県	武川村、石空川溪谷					24	24
9	10	21	仙我滝	山梨県	甲府市、昇仙峡				290	6	296
10	10	28	吹割の滝	群馬県	利根村、片品川				330	7	337
11	11	4	棚下不動の滝	群馬県	赤城村、利根川				290	5	295
12	11	23	箕面の滝	大阪府	箕面市、箕面川		1,060		0	8	1,068
					1990年度計	0	2,140	0	3,870	87	6,097

箕面市箕面国定公園内にあるこの滝は高さ三三メートルとそれ程ないが、紅葉の頃、

日光の中、滝壺から見上げていると時間の経つのを忘れる。

一九九〇年十一月二三日
 総行程 一、〇六八 km
 計 六、〇九七 km



〔12〕 箕面の滝（大阪府）

三三 m

〔13〕 酒水の滝（神奈川県）

六九m



六九メートル三段からなるこの滝は修験の滝でもある。名水百選にも選ばれている。

一九九一年 三月一六日
行程 一八四km
総計 六、二八一km



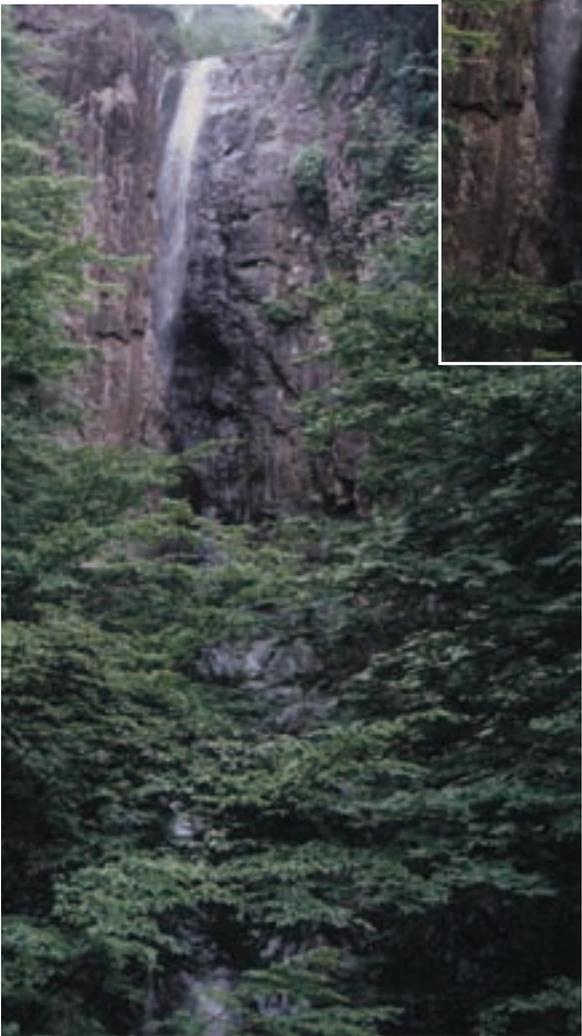
〔14〕 早戸大滝（神奈川県）

五〇m



誰にも会わない早戸川を遡る。
滝の前には大岸壁があり、滝の全容は見る事ができなかった。

一九九一年 七月二〇日
行程 一九二km
総計 六、四七三km

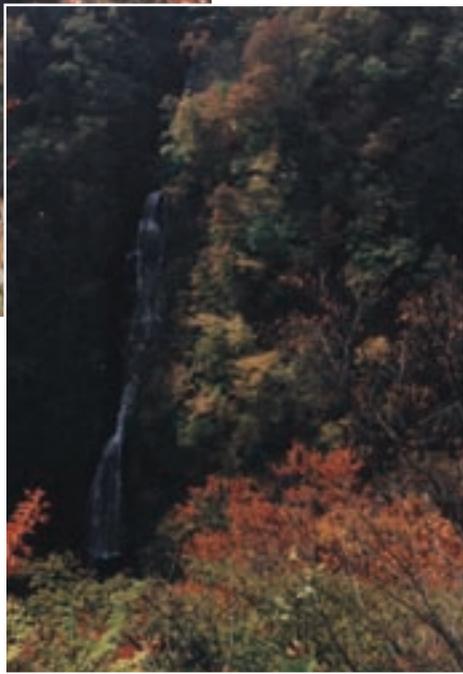
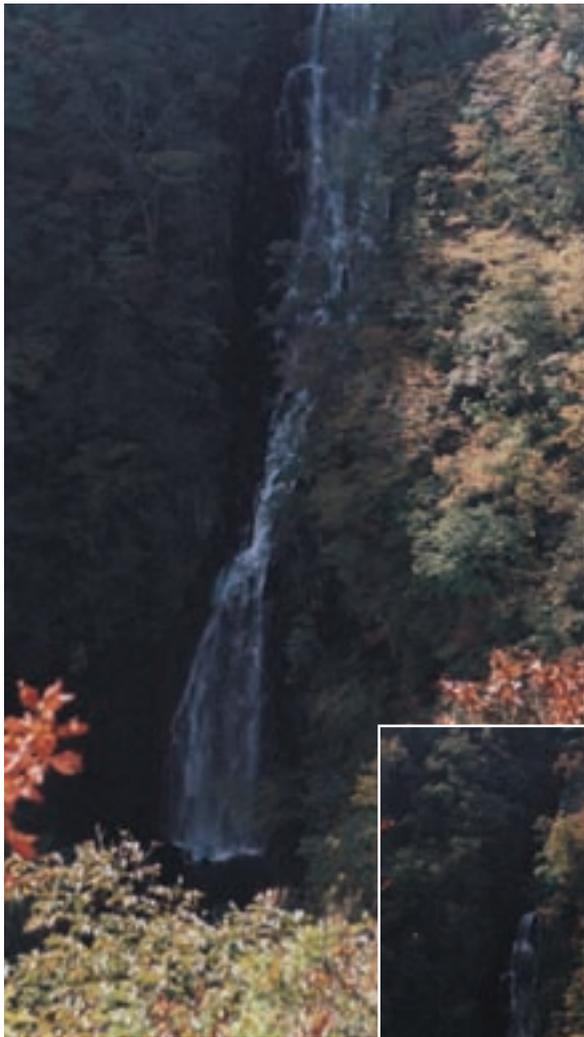


〔14〕三階の滝（宮城県）

観瀑台から見る、断崖から落下する純白の流水は雄大である。

紅葉時見る滝は尚最高である。

一九九一年一〇月二四日
行程 七九一km
総計 七、二六四km



一八一m

〔16〕秋保大滝（宮城県）

高さ五五mを一気に流れ落ちた水は滝壺で跳ね返され水煙となって上空に舞い上がる。滝壺で眺める雰囲気はマイナスイオン100%である。

五五m



一九九一年一〇月二四日
行程 三km
総計 七、二六七km

[17] 銚子ヶ滝 (福島県)

この滝の名称の由来は形が酒を入れる銚子に似ていることから名付けられた。
このアングルより左岸へ渡った方がもっと銚子の形が見られたかもしれない。



一九九一年一〇月二六日
行程 一五 km
総計 七、二八二 km

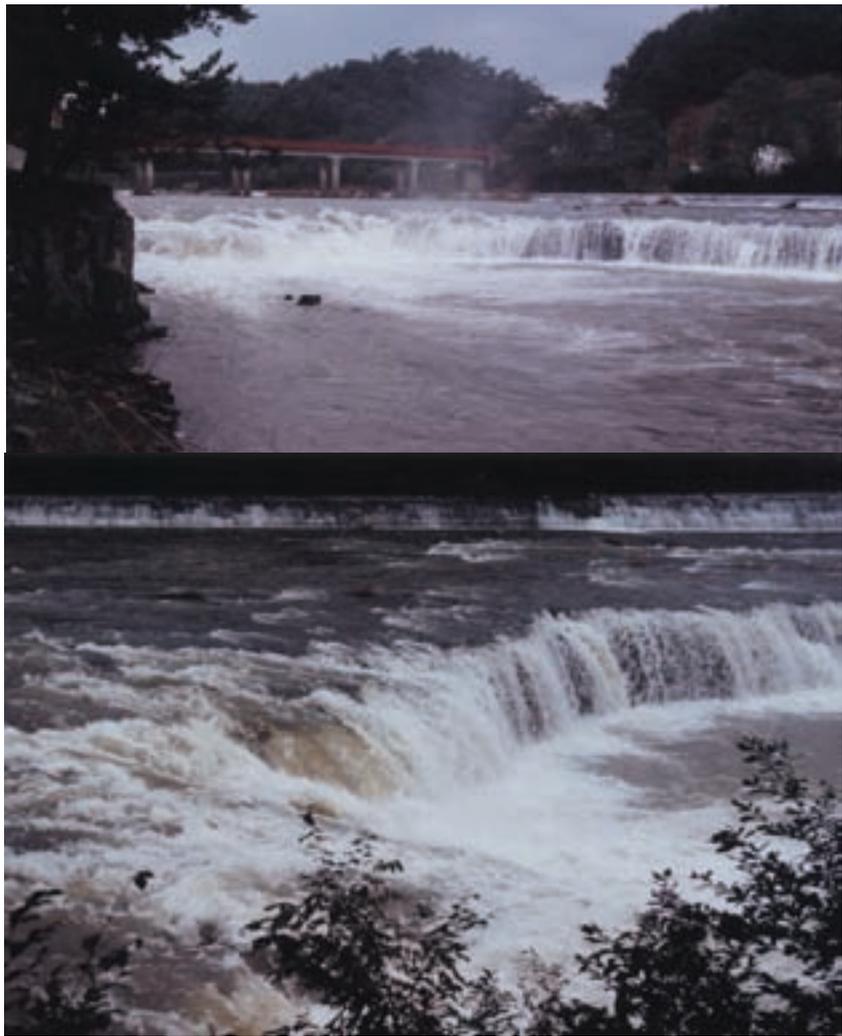
四八 m

[18] 乙字ヶ滝 (福島県)

滝の形が乙字をなしていることから名付けられた。雄大な滝である。



一九九一年一〇月二六日
行程 二 km
総計 七、二八四 km



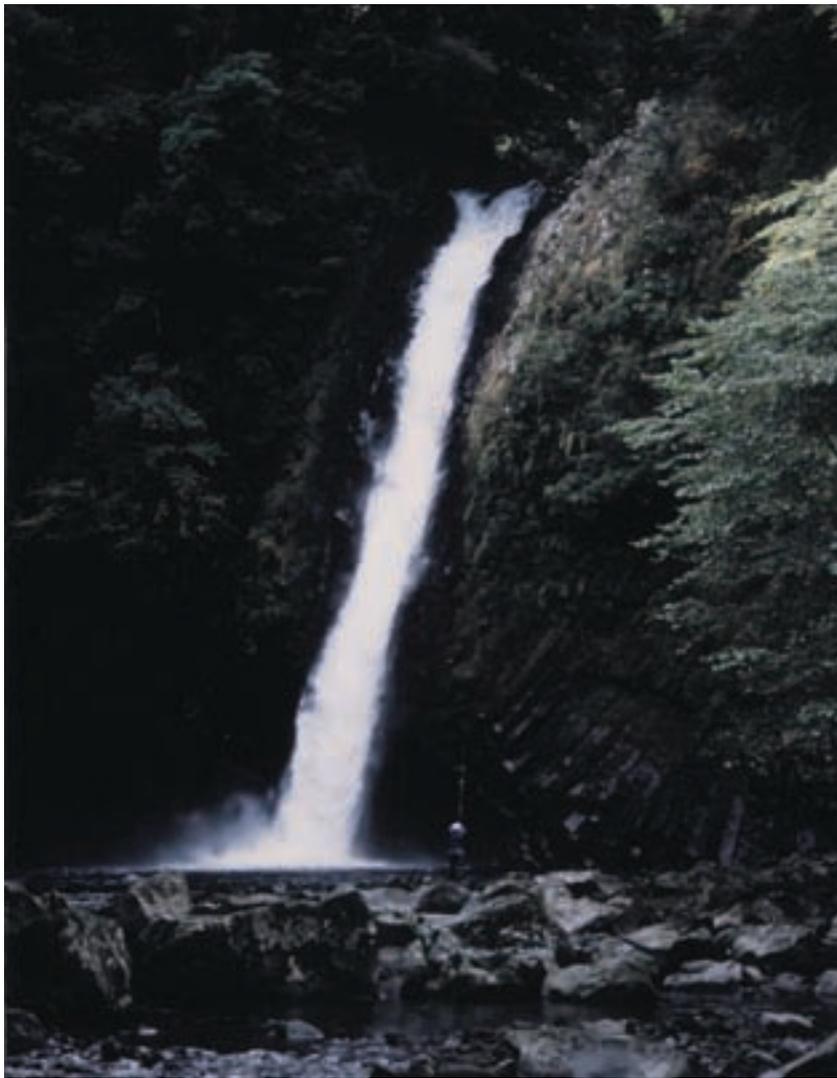
六 m

〔19〕 浄蓮の滝 (静岡県)

わずか二五mではあるが、豪快に滝壺に流れ落ちる様は風格がある。

滝壺の轟音のなか、釣竿を操る釣り人が印象的であった。

一九九一年 一月二日
行程 六五四km
総計 七、九三八km



二五m

〔20〕 阿寺の七滝 (愛知県)

礫岩から流れる七段の滝は二番目と五番目の滝壺は甌穴となっている。

最下段の滝壺にいて、流れてくる滝を見ていると安らぎを与えてくれる。

六四m



一九九一年 二月一〇日
行程 三三二km
総計 八、二六〇km

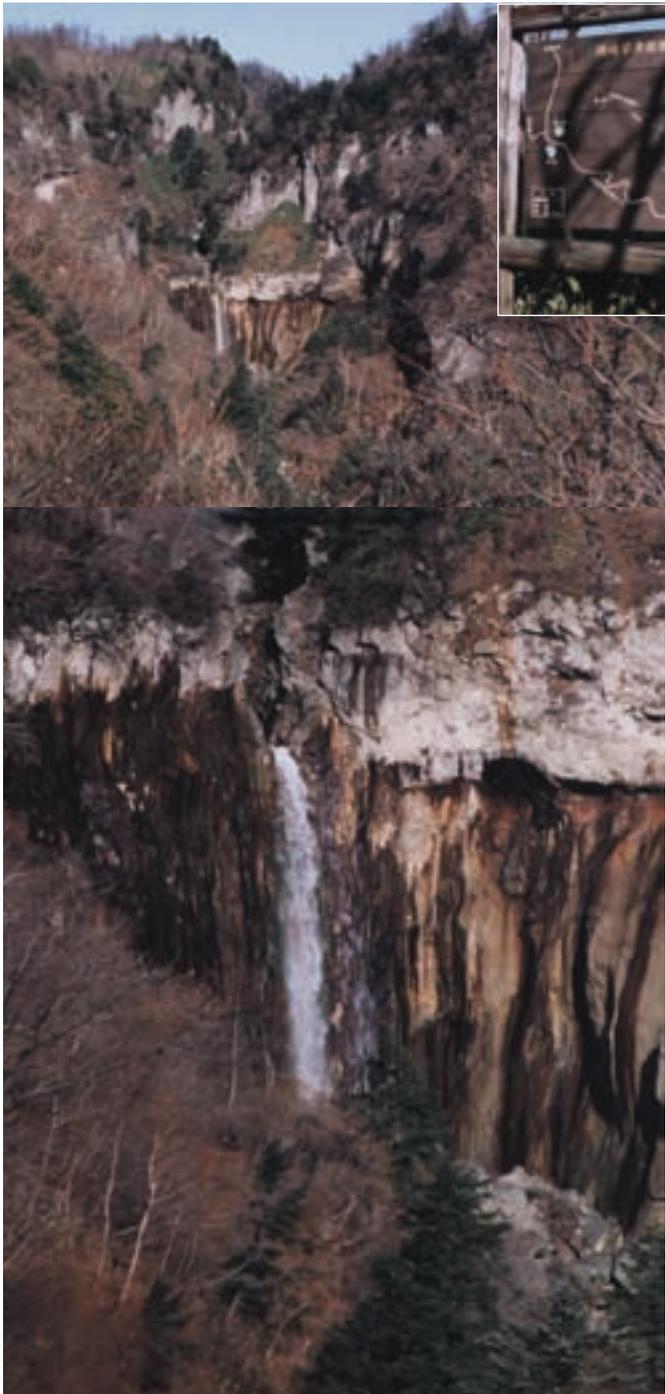
〔21〕常布の滝（群馬県）

滝壺へ行くにはガイドの同行が必要という秘境の滝。渋峠草津探勝歩道から遠くに眺めた。

いつか滝壺に行つてすばらしい光景を見させてもらおう。

一九九一年 一月一日
総行程 八、七〇五 km

五〇m



〔22〕養老の滝（岐阜県）

この滝の水は万病を癒す薬の水という、そして若返りの水とも言ふ。

私も飲んで来た、若返つてしまった。

この滝の見える食堂にいたら、可愛い娘さんを連れられた夫婦と出合った。

ご主人に「海外の滝を見た

ことがあるか」と問われた。多分イグアスの滝だったと思う。その滝は見事と言うほかはなく、見に行つたら感激しますよ」と言われた。

日本の滝を廻り始めて二三個目であり、海外までは全く考えていなかった。

まさか海外の滝まで見に行くとは思つてもいなかった。

このメモを書いている今、日本百名瀑を廻り終わり、世界三大名瀑の二つを観瀑した。残る一つも見に行きたいと思つている。

三〇m



一九九一年 一月七日
総行程 八、五五八 km

1991年度 行程表

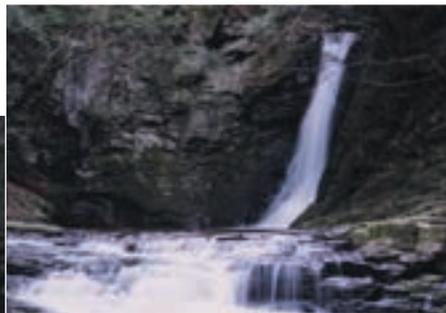
観瀑日	100名瀑			工程km							
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
13	3	16	酒水の滝	神奈川県	山北町、酒匂川				180	4	184
14	7	20	早戸大滝	神奈川県	津久井町、早戸川				170	22	192
15	10	24	三階の滝	宮城県	蔵王町、澄川溪谷				790	1	791
16	10	〃	秋保大滝	宮城県	仙台市、名取川					3	3
17	10	26	銚子ヶ滝	福島県	郡山市、石筵川					15	15
18	10	〃	乙字ヶ滝	福島県	須賀川市、阿武隈川					2	2
19	11	1	阿寺の七滝	愛知県	鳳来町、阿寺川				320	2	322
20	11	2	浄蓮の滝	静岡県	天城湯ヶ島町、狩野川				640	14	654
21	12	1	常布の滝	群馬県	草津町、大沢川				440	5	445
22	12	7	養老の滝	岐阜県	養老町、津屋川				850	3	853
					1991年度計	0	0	0	3,390	71	3,461

〔23〕 赤目四十八滝（三重県）

一五m

室生・赤目・青山国定公園
内にある全長約4km、往復約
三時間を要して探勝する滝々。
琵琶滝、布曳滝など、心落
ち着く滝が沢山あるが、私は
心癒される、荷担(にない)滝
が好きである。

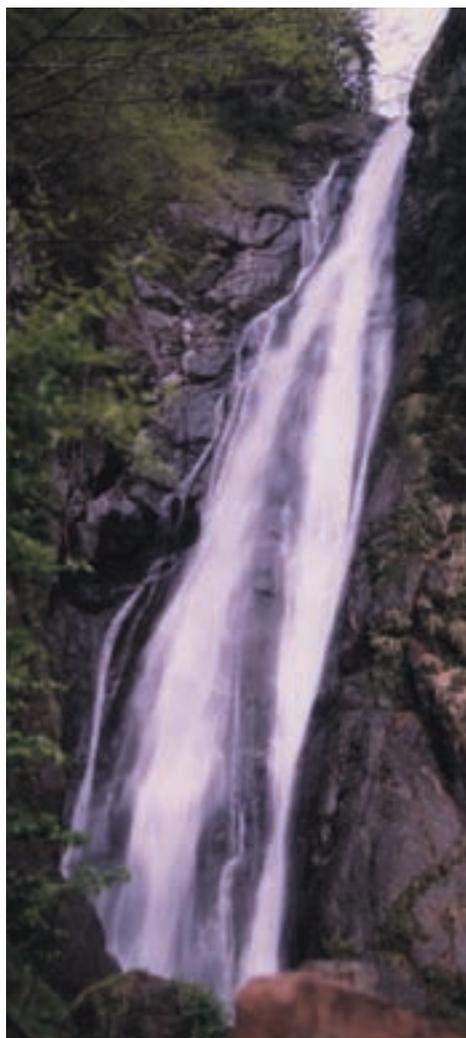
一九九二年 四月一二日
行程 一、一三〇km
総計 一〇、六八八km



〔24〕 安倍の大滝（静岡県）

垂直に切り立った岩の上から落下する水が飛沫となり、付近に飛び散る様は雄大な景觀である。

一九九二年 四月三〇日
行程 九三二km
総計 一一、六二〇km



八〇m

〔25〕 白糸・音止めの滝（静岡県）

百mの長さのU字形岸壁の中腹から水が湧き流れ出る・潜流瀑はめずらしい滝だ。

白糸の滝の下流に位置す

る・音止めの滝は轟き音も豪快である。

一九九二年 四月三〇日
行程 三km
総計 一一、六二三km

二〇m



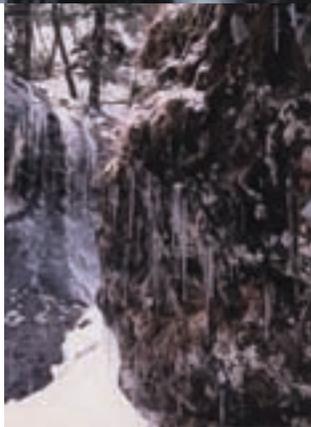
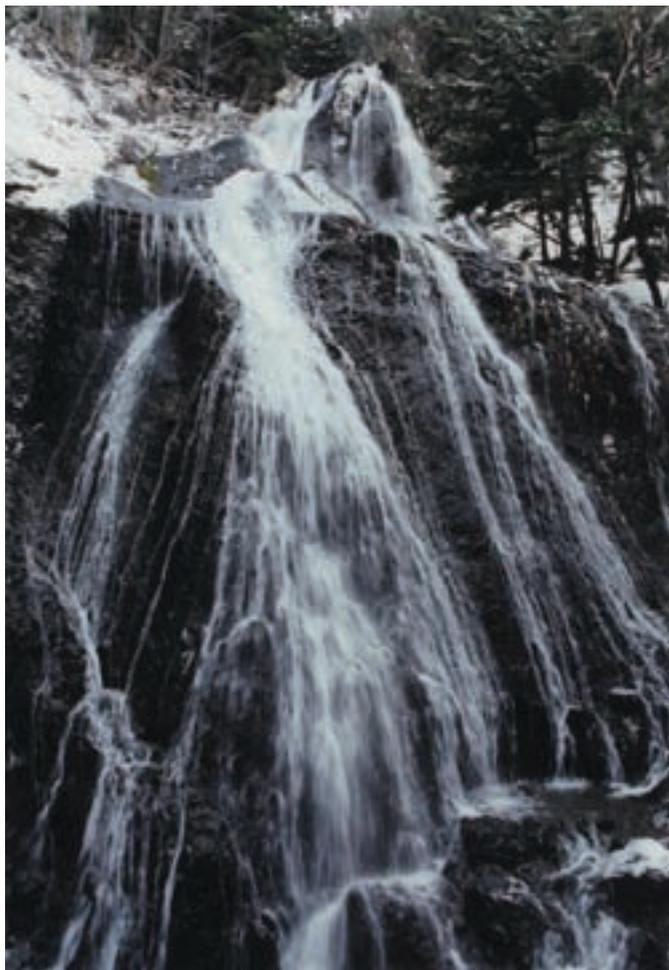
〔26〕 三本の滝（長野県）

二〇〇m

滝をのぞむ中央の岩に不動明王と摩利支店の石仏がまつられていたという。
この滝は乗鞍火山の溶岩滝

の末端にできた滝である。乗鞍岳へ向かっているという登山者二人に出会う。相手は冬山登山の完全装備であつ

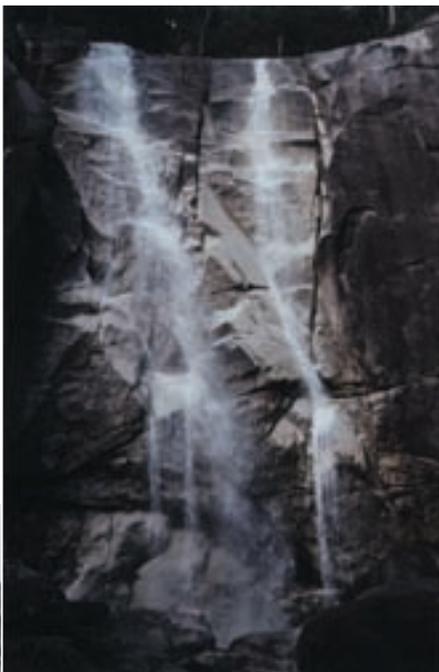
た。私は朝早かったのでハイキングシューズだったような気がする。



一九九二年 五月一日
行程 六km
総計 一一、六二九km

〔27〕 田立の滝（長野県）

九六m



南木曾町大滝川にかかる田立の滝群は雄大な岸壁から流れ落ちる迫力のある滝である。らせん滝・霧ヶ滝など数あ

る滝の中で主瀑の天河滝が大きな岩の印象的な滝であった。

一九九二年 五月一日
行程 五km
総計 一一、六三四km



〔28〕 米子大瀑布（長野県）

八五 m

水源は四阿山から発し米子川にかかる他に比類のない雄大な滝である。写真帳の写真を目に入れないから現地に向いた。日本にもこういう所があったのだと感

心した。往路、断崖の所を通る一本道、車を進めた。崖崩れでこの道が塞がれたらと思うと心細かった。

一九九二年 六月二日
行程 一、〇八六 km
総計 二二、七二〇 km



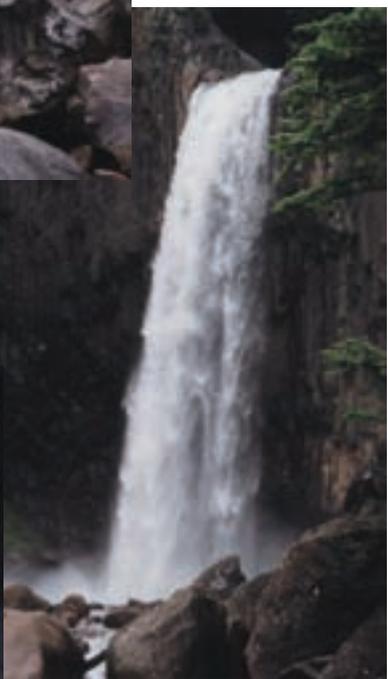
〔29〕 苗名滝（新潟県）

五五 m

柱状節理を持つ玄武岩の断層から流れ出る四つの滝の一つである。

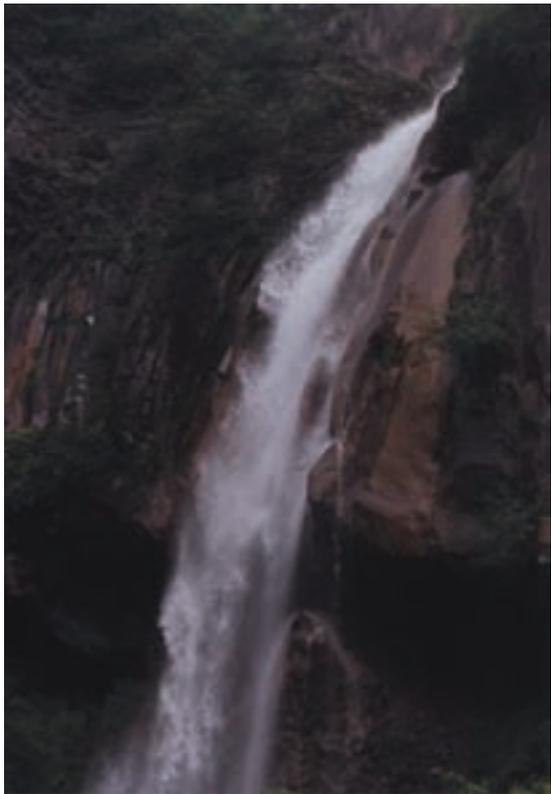
水量のある時は豪快で、少ない時では趣があり見事な滝である。

一九九二年 六月二日
行程 五 km
総計 二二、七二五 km



[30] 惣滝 (新潟県)

新潟県妙高村燕温泉の奥まった所にある滝。
水量も多く、残雪との対比が印象的であった。



一九九二年 六月一三日
行程 三 km
総計 一二、七二八 km



八〇 m

[31] 称名滝 (富山県)



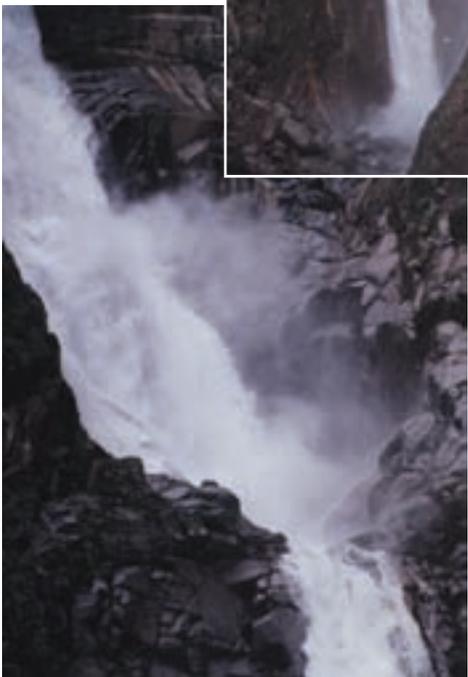
中部山岳国立公園にある、落差三五〇mを誇る日本一の大滝。
観瀑の時期はやはり、雪解けや豪雨時に、称名滝の右側

に出現する、ハンノキ滝・落差五〇〇mが称名滝とV字形をなし同じ滝壺に流れ落ちる凄まじい姿の見られる頃であろう。



一九九二年 六月一四日
行程 一二 km
総計 一二、七四〇 km

三五〇 m



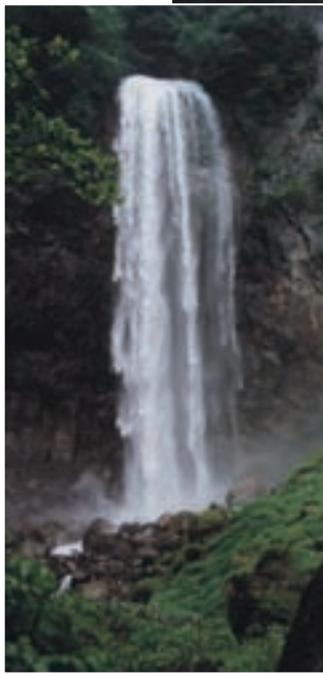
〔32〕 平湯大滝（岐阜県）

六四m



中部山岳国立公園の海拔一、四七五mにある味わいのある滝。
霧に包まれ、かすむ滝は神秘的で優雅である。

一九九二年 六月一五日
行程 三km
総計 一二、七四三km



〔33〕 滑川の大滝（山形県）

八〇m



一九九二年 十一月一日
行程 八八四km
総計 一三、六二七km



秘境の湯治場・滑川温泉の近くにある雄大な滝。
滝壺から見上げる姿はみごとである。
滝壺に行くには熊除けベルトが必携。

1992年度 行程表

	観瀑日		100名瀑		工程km						
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
23	4	12	赤目四十八滝	三重県	名張市、滝川				1,120	10	1,130
24	4	30	安倍の大滝	静岡県	静岡市、安倍川				920	12	932
25	4	〃	白糸・音止めの滝	静岡市	富士宮市、富士川					3	3
26	5	1	三本の滝	長野県	安曇村、小大野川					6	6
27	5	〃	田立の滝	長野県	南木曾町、木曾川					5	5
28	6	12	米子大瀑布	長野県	須坂市、米子川				1,080	6	1,086
29	6	〃	苗名滝	新潟県	妙高高原町、関川					5	5
30	6	13	惣滝	新潟県	妙高村、大田切川					3	3
31	6	14	称名滝	富山県	立山町、称名町					12	12
32	6	15	平湯大滝	岐阜県	上宝村、乗鞍山系					3	3
33	11	1	滑川の大滝	山形県	米沢市、大滝沢				880	4	884
34	11	2	三条の滝	福島県	檜枝岐村、只見川					28	28
					1992年度計	0	0	0	4,000	97	4,097



尾瀬の水を集めて一気に落下する豪快な滝。
この滝の水量は日本一かな！

[34] 三条の滝 (福島県)

一九九二年 一月二日
総行程 二八km
計 一三、六五五km

[35] アシリベツの滝 (北海道)



2004.6.25 撮影



1995.5.24 撮影

札幌市、滝野すずらん丘陵公園の中にあり、公園を散策し、滝をゆっくり観賞と鑑賞するにはいつまでも見飽きることがない滝だ。
一九九五年五月二十四日に一回見て、二回目は二〇〇四

年六月二十五日に見に行った。滝は崩れ、後退していた。この美しい滝は滅びないで、いつまでも残っていて欲しいと感ずる。

一九九五年 五月二四日
行程 一、六三二 km
総計 一五、二八七 km

[36] 安の滝 (秋田県)

山奥深い またぎの里、悲恋ヤスの伝説がのこっている。黒い岩肌を筋状模様の流れ落ちていく姿は美しく、滝壺より見上げる景観はみごとである。
帰りの沢には岩魚が二匹、溪流の中に見つけることができた。



一九九五年 八月一七日
行程 一、五〇六 km
総計 一六、七九三 km

[37] 不動の滝 (岩手県)

朱色の渡橋から見る姿は優雅な雰囲気を感じ、深緑より湧き出でる姿は堂々たる滝だ。



一九九五年 八月二八日
行程 一 km
総計 一六、七九四 km

一五 m

[38] 七滝 (秋田県)



六〇 m

黒々とした岩肌を七段に渡って流れ落ちる勇壮な滝である。



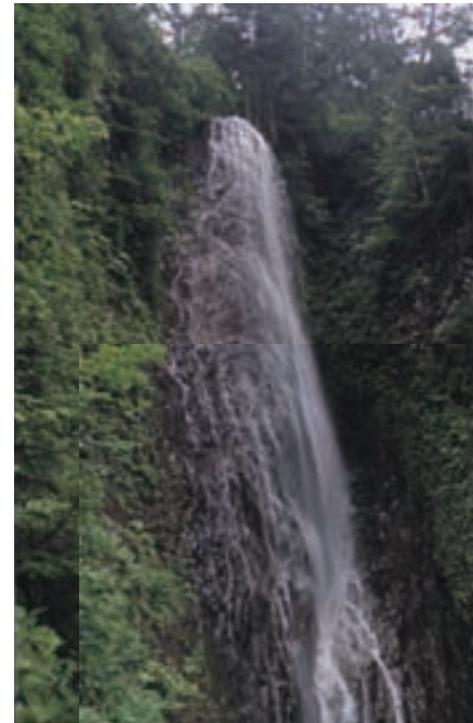
一九九五年 八月二八日
行程 二 km
総計 一六、七九六 km

1995年度 行程表

	観瀑日		100名瀑			工程km					
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
35	5	24	アシリベツの滝	北海道	札幌市すすらん公園	1,600	20		10	2	1,632
36	8	17	安の滝	秋田県	阿仁町、打当川				1,502	4	1,506
37	8	18	不動の滝	岩手県	安代町、不動川					1	1
38	8	〃	七滝	秋田県	小坂町、小坂川					2	2
39	8	19	茶釜の滝	秋田県	鹿角市、夜明島溪谷					11	11
					1995年度計	1,600	20	0	1,512	20	3,152



夜明島溪谷の沢を登り、山奥深い樹林の中にある落差百mの滝。
 急峻な断崖を流れ落ちる姿は圧巻である。
 観瀑スペースは幅1m程の狭い尾根状で左右は崖、しかも坂地のため不安定。
 近くの木にスリングで自分



を確保、三脚に付けたカメラもスリングで確保した。
 滝から観瀑場所が近く、三五ミリのレンズでは全景を捉えられなかった。
 広角レンズを車に置いてきた事を後悔した。

一九九五年
 八月一九日
 行程 一一 km
 総計 一六、八〇七 km

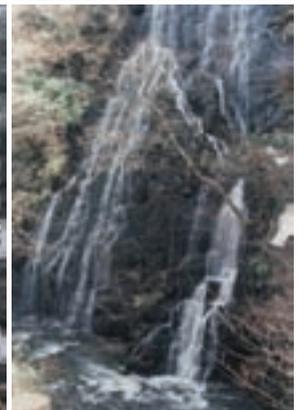
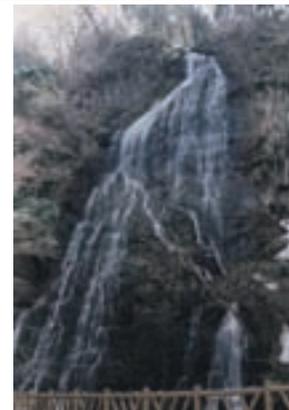
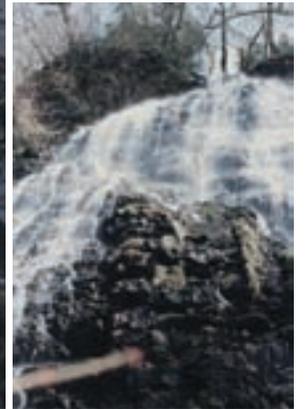


〔39〕 茶釜の滝

〔秋田県〕

〔40〕 龍双ヶ滝 (福井県)

雛段状を思わせる岩肌の流れる清水は趣があり美しい。見ていると清水を手で触りながら雛壇上を上って行けそうに思い楽しさを感じる滝である。



一九九六年 三月二一日
行程 一、三三六 km
総計 一八、一四三 km

六〇m

〔41〕 阿弥陀ヶ滝 (岐阜県)

白山信仰の霊場として修験者・滝参りの人々にぎわう、落差六〇mの美瀑である。折れ滝…たまたま風によって押し流され見える滝の情景だが、一人旅をしていてこういうのを観られる事はうれしいものだ。



一九九六年 三月二一日
行程 一 km
総計 一八、一四四 km

六〇m

〔42〕 根尾の滝（岐阜県）

三二m



残雪、岩肌を調和させる一条の滝は豪快さと優雅さを感じずる。
朝五時起床、今回は案内板のある所でテント泊を行う。朝の気温はマイナス二度であった。滝までのアプローチは六本爪のアイゼンが有効に活用できた。



一九九六年 三月二三日
行程 一六km
総計 一八、一六〇km

〔43〕 八草の滝（和歌山県）

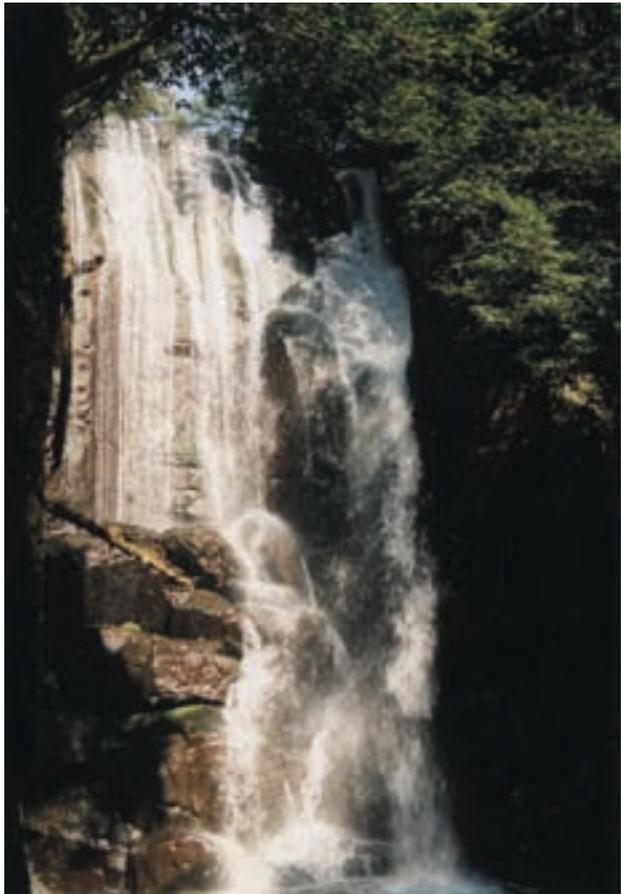
二二m



対岸に渡れず、滝つぼには行けなかった。
流水の少なさ、対照的な新緑と赤い岩肌が印象的であった。

一九九六年 四月二七日
行程 一、九九九km
総計 二〇、一五九km

〔44〕 桑ノ木の滝（和歌山県）



舗装された道路から細い橋を渡り六八〇ㇼの奥まった所、午後2時半ごろ滝に到着した、ちようど滝壺に虹がかかり、新緑の明るさ、岸壁の暗さ、滝の流れの眩しさが幻想的であつた。

一九九六年 四月二七日
行程 三 km
総計二〇、一六二 km



〔45〕 那智の滝（和歌山県）



さすが、日本3大名瀑の一つ、滝の下、飛瀧神社から見上げる様はまさに天を仰ぐと

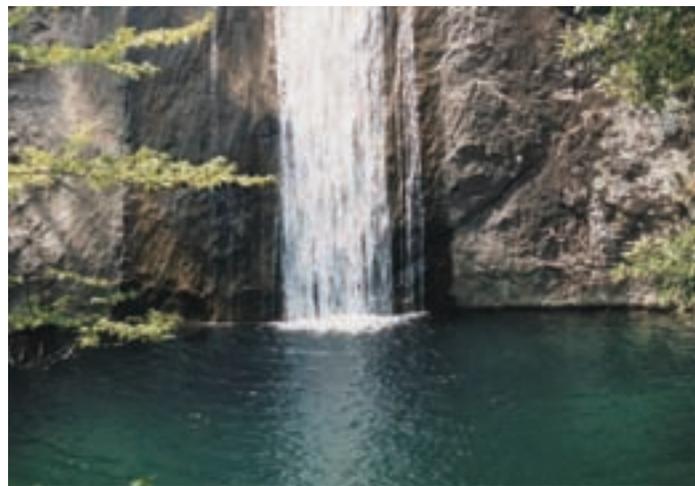
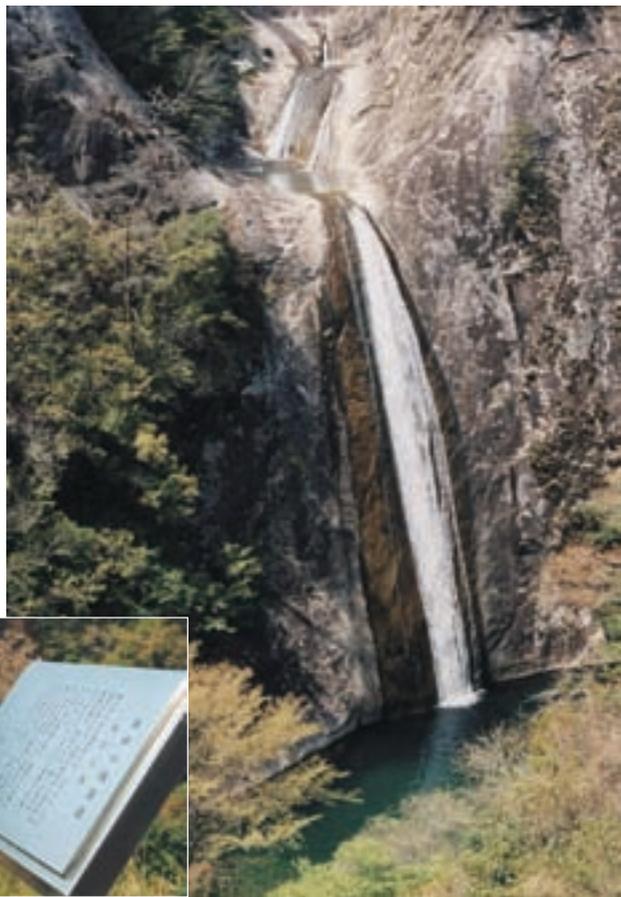
いう感じだ。滝に一番近い滝見台では飛沫浴が出る。



一九九六年 四月二八日
行程 三 km
総計二〇、一六五 km

〔46〕 布引の滝 (三重県)

五三 m

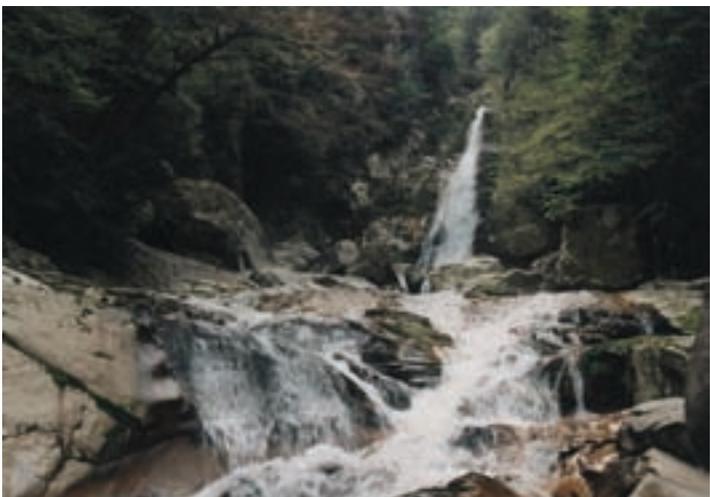
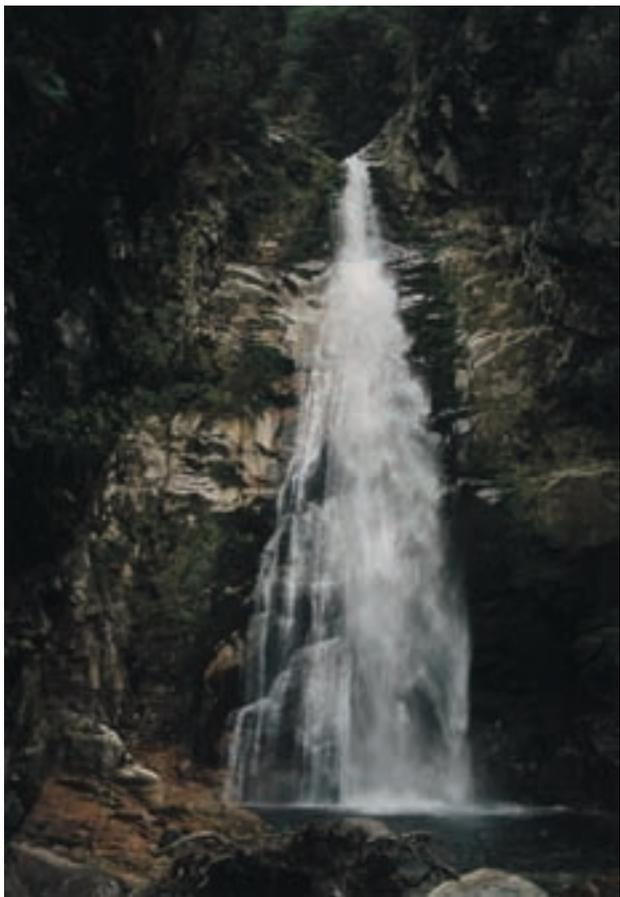


一九九六年 四月二八日
行程 一 km
総計 二〇、一六六 km

わずかに傾いた1枚岩をま
さに布が滑るように流れる様
は滝の名のとおりである。
遠景はハガキの絵になるよ
うな好景であった。

〔47〕 笹の滝 (奈良県)

三〇 m

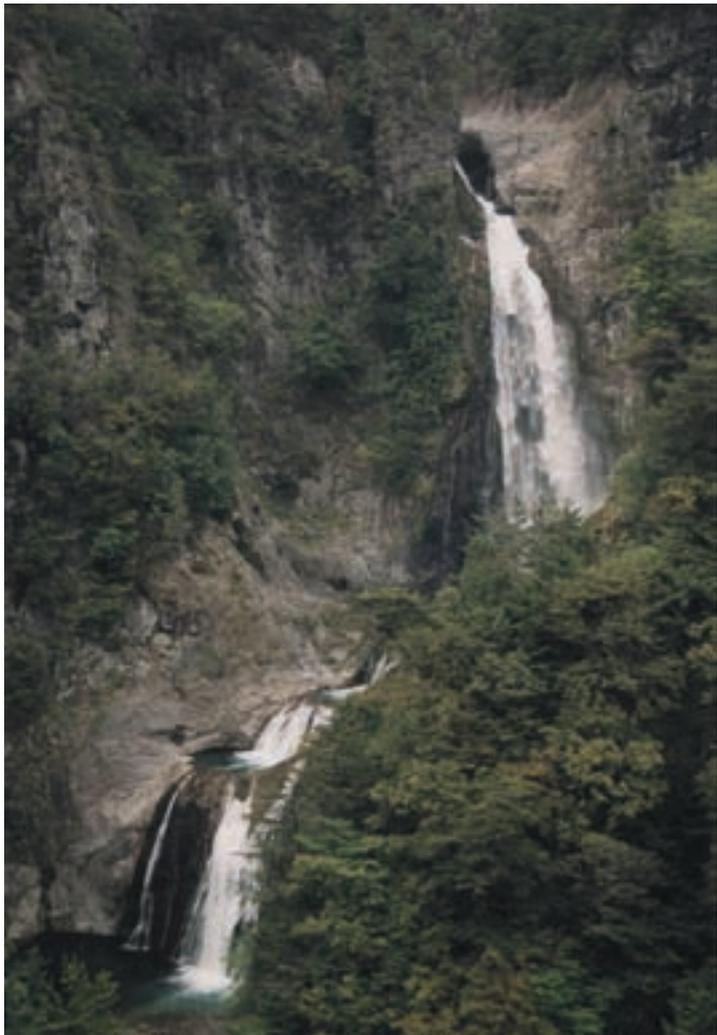


白い岩肌と新緑と水の流れ
は調和が取れてきれいな景観
であった。

一九九六年 四月二九日
行程 二 km
総計 二〇、一六八 km

〔48〕 不動七重滝（奈良県）

100m



滝は自動車道より望む。

連続した4段の滝は水量も

みごとであり、滝つぼのエメ

ラルドグリーンの水の色もみ

ごとであった。



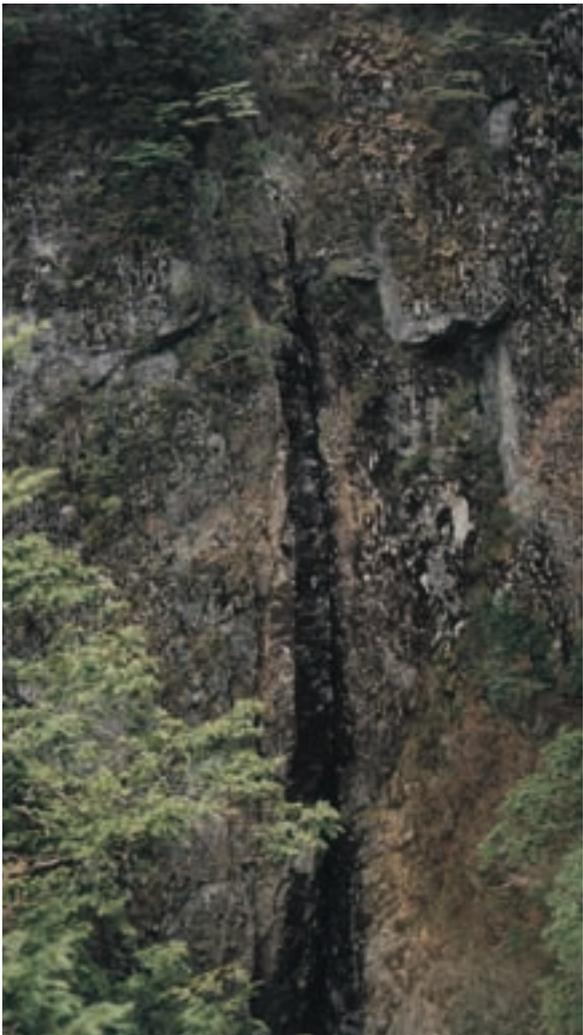
一九九六年 四月二九日

行程 二km

総計 二〇、一七〇km

〔49〕 双門の滝（奈良県）

70m



垂直に近い鉄ばしごを登り、岩場を登り、写真帳の滝を目に浮かべながら前進した。それにしても、ここもきつい山道だ。



二万五千分の一の地図を携帯し、滝へのスタートを開始する。弥山川・白川八丁へ降りたが川には水が流れていなかった。河原の下を流れてい

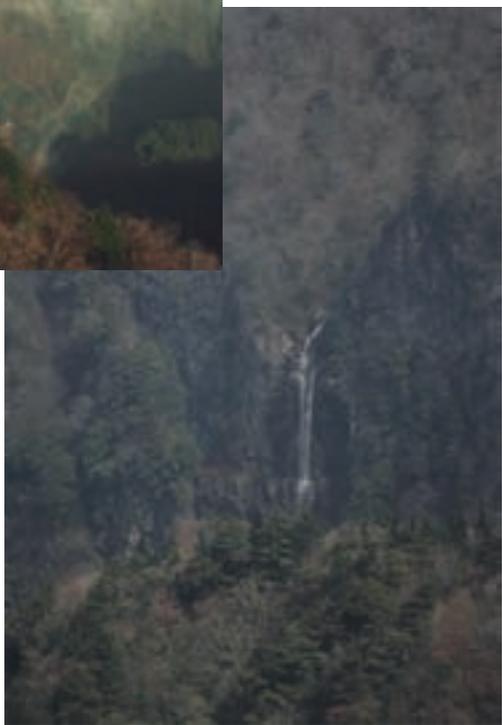
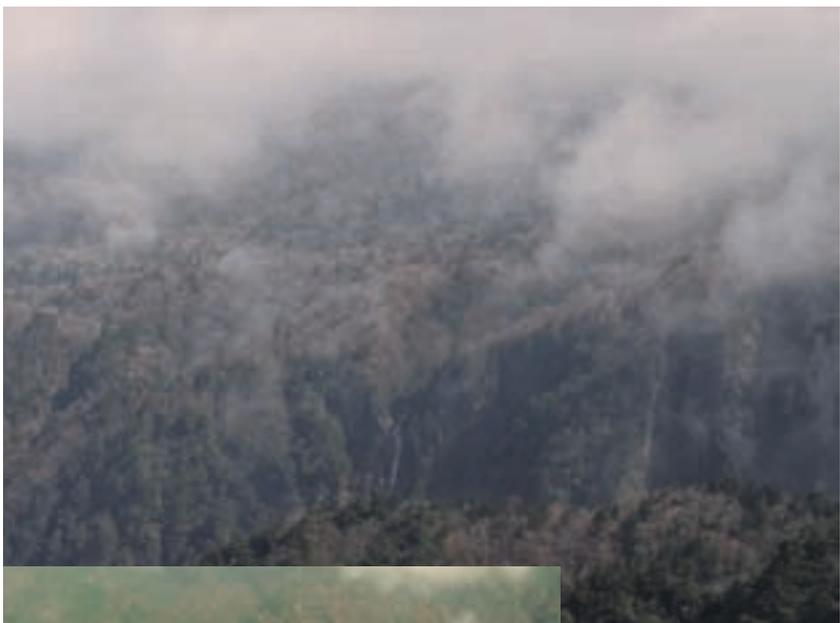
るようだ。上り道に入る、橋は流されて対岸へは徒渉を余儀なくされたり、鉄製の橋は崖崩れにあい、押し流されて大木に止まっている。

一九九六年 四月三〇日

行程 八km

総計 二〇、一七八km

〔50〕 中の滝（奈良県）



滝へは急峻な山道のため最短の展望台である、「大蛇」からの遠望となった。滝壺へ行っていない、あるいは行くことが困難で行っていない箇所が何ヶ所がある。行きたいものである。

一九九六年 五月二日
行程 三 km
総計二〇、一八二 km

一五〇 m

〔51〕 七つ釜滝（三重県）



一五〇 m

一九九六年 五月三日
行程 一三 km
総計二〇、一九四 km

観瀑小屋からは3釜しか見られないのが残念であるが、スケールの大きい雄大な段瀑である。



〔52〕 寂地峡五竜の滝（山口県）

一〇〇m



瀧の上から竜頭の滝・竜門の滝・白竜の滝・登竜の滝・竜尾の滝と流れ落ちるが一堂に会して見ることが出来ない。竜頭の滝と竜門の滝はみごとに流れ線美を見せていた。

一九九六年一〇月二二日
行程 一、七四五km
総計 二一、九三九km



〔53〕 鈴ヶ滝（新潟県）

五五m

紅葉の名残の中、雨上がりの滝は推量が多く写真で見るとよりも豪快に感じた。



一九九六年 十一月二日
行程 二、三一一km
総計 二四、二五〇km

〔54〕七ツ滝（山形県）



滝のある山の反対の山より
観瀑をする。

雄大な山をバックに流れ落ちる姿は、落ち着いた雰囲気をかもしだしている。



一九九六年 十一月三日
行程 三 km
総計 二四、二五 km

〔55〕白糸の滝（山形県）



普通、滝には滝壺があり、
流れて川へ辿り着く。この滝
は滝壺がなく、落ちた水は地
下をくぐって川の中央に流れ

て行くと言う。

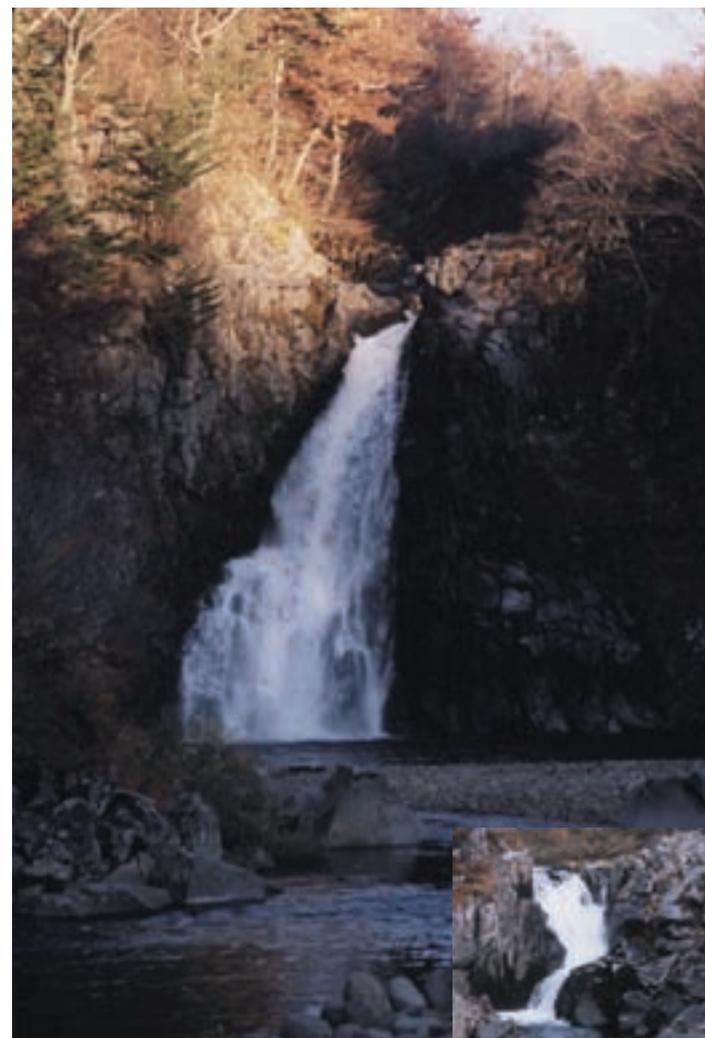
最上川の船下りから見る滝
は風情があるだろう。



一九九六年 十一月三日
行程 一 km
総計 二四、二五 km

1996年度 行程表

観瀑日	100名瀑			工程km							
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
40	3	21	龍双ヶ滝	福井県	池田町、九頭竜川水系				1,332	4	1,336
41	3	〃	阿弥陀ヶ滝	岐阜県	白鳥町、長良川					1	1
42	3	23	根尾の滝	岐阜県	小坂町、御岳水系					16	16
43	4	27	八草の滝	和歌山県	日置川町、日置川				1,997	2	1,999
44	4	〃	桑ノ木の滝	和歌山県	新宮市、熊野川水系					3	3
45	4	28	那智の滝	和歌山県	那智勝浦町、那智川					3	3
46	4	〃	布引の滝	三重県	紀和町、熊野川水系					1	1
47	4	29	笹の滝	奈良県	十津川村、熊野川水系					2	2
48	4	〃	不動七重滝	奈良県	下北山村、熊野川水系					2	2
49	4	30	双門の滝	奈良県	天川村、弥山川					8	8
50	5	2	中の滝	奈良県	上北山村、東ノ川					3	3
51	5	3	七つ釜滝	三重県	宮川村、宮川水系					13	13
52	10	22	寂地峡五竜の滝	山口県	錦町、寂地山系		1,600		140	5	1,745
53	11	2	鈴ヶ滝	新潟県	朝日村、高根川				2,307	4	2,311
54	11	3	七ツ滝	山形県	朝日村、東大鳥川					3	3
55	11	〃	白糸の滝	山形県	戸沢村、最上川					1	1
56	11	〃	法体の滝	秋田県	鳥海町、鳥海山水系					3	3
					1996年度計	0	1,600	0	5,776	74	7,450



河床の神秘的な岩肌と未広がり
に白い布をたれ下げたように
流れる美しい滝だ。

夜、ライトアップしていた
時があったという。幻想的で
あろうと想像する。

〔56〕 法体の滝 (秋田県)



一九九六年 十一月三日
行程 三 km
総計 二四、二五七 km

〔57〕 原不動滝 (兵庫県)

奥播磨に光るユートピア芳賀町の優雅な名瀑である。



八八m

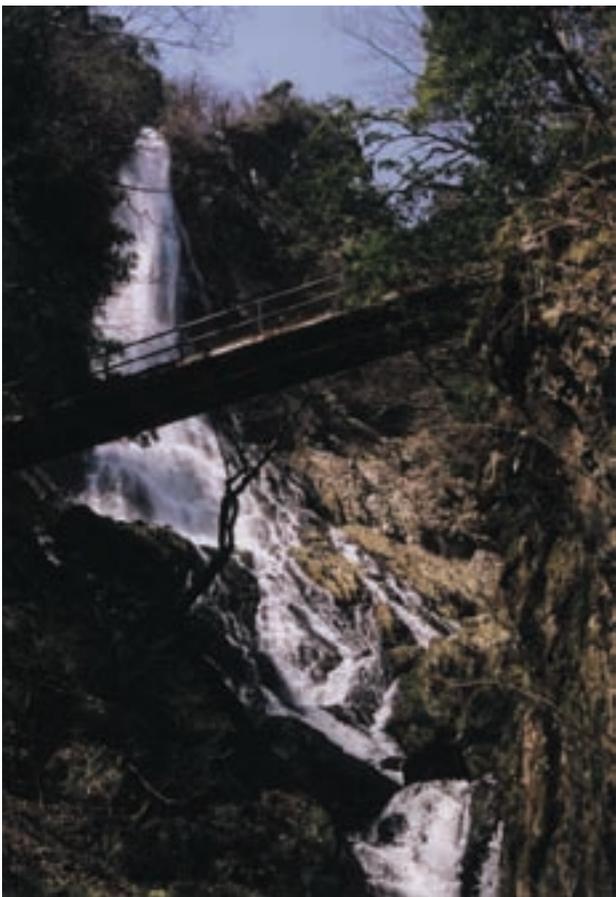
一九九八年 四月四日
行程 二、〇二五 km
総計 二六、二八二 km

〔58〕 天滝 (兵庫県)

NHK朝のドラマ「ふたりっ子」のタイトルバックに登場した滝である。流れ落ちる中間地点では、滝の近くまで行ける。天に届くほどのス

ケールの大きい滝である。その場で上と下を見渡すと、いつもながら、「自然は大きく、人間は小さいものだな」と感じた。

九八m



一九九八年 四月四日
行程 三 km
総計 二六、二八五 km

〔59〕猿尾滝（兵庫県）

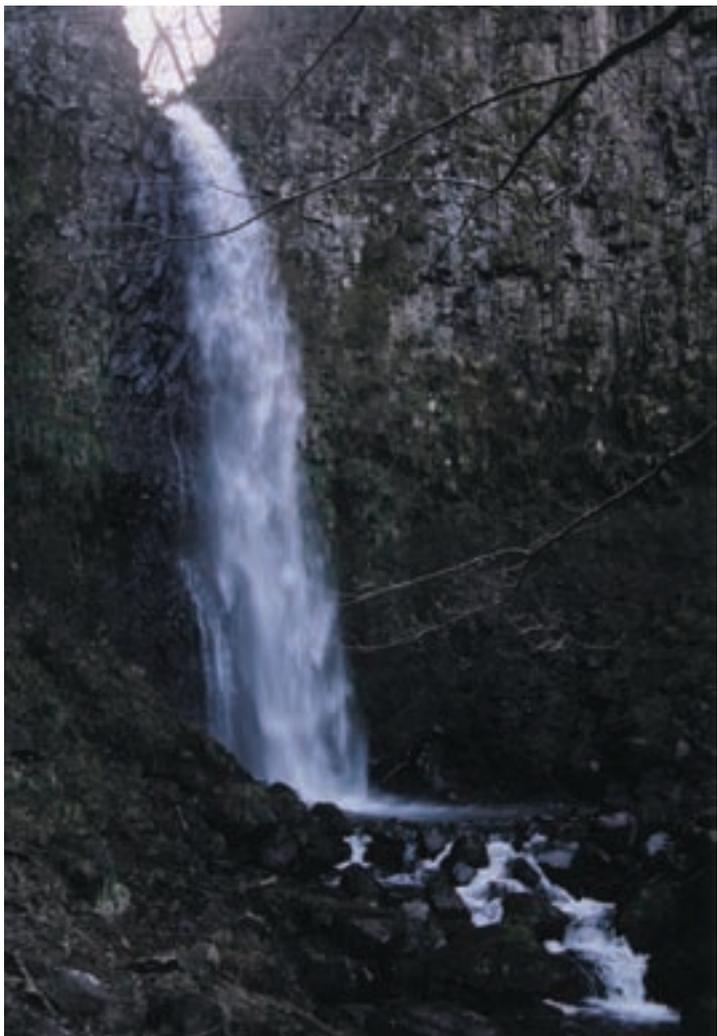


奥播磨に光るユートピア芳賀町の優雅な名瀑である。

一九九八年 四月四日
行程 二km
総計 二六、二八七km

六〇m

〔60〕雨滝（鳥取県）



落口から一気に落下する様は豪快である。滝流は滝壺で跳ね返されず、水煙は滝壺を這うように消えていく、不思議な滝でもあった。

一九九八年 四月五日
行程 四km
総計 二六、二九一km

四〇m



〔61〕 神庭の滝 (岡山県)

一〇m

深い森の中、落差二一〇mの中国地方随一の大きな滝。親指を突き出しているような、堅固な岩石を分け入るように流れる様は印象的な滝である。



一九九八年 四月五日
行程 三 km
総計 二六、二九四 km



〔62〕 金引の滝 (京都府)

四〇m



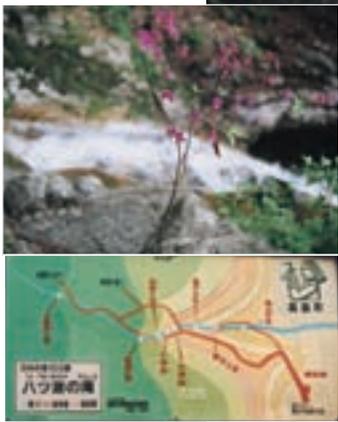
宮津市宮津湾・天橋立の近く。
滝は末広がり流れ味わいを感じさせる滝である。



一九九八年 四月三〇日
行程 一、六五四 km
総計 二七、九四八 km

〔63〕 八ツ淵の滝 (滋賀県)

琵琶湖の近く高島町鴨川にかかる八つの淵は、貴船淵には趣を感じ、大・小摺鉢には安らぎを感じる滝である。



一九九八年 五月一日
行程 六 km
総計 二七、九五四 km

〔64〕 姥ヶ滝 (石川県)

一一一m



山の中腹より岩肌に沿って白い絹糸のように流れる様は、姥の髪様を思わせる、秀麗な滝である。

一九九八年 五月二日
行程 八 km
総計 二七、九六二 km



午後三時に自宅をスタート、
滝入り口まで、車両走行距離
は七七三km、その到着はもち
ろん翌日でお昼の一二時ころ、
休憩をいれて二一時間はさす

がに乗りこたえはあった。
滝壺から見る、落差八五m
の見上げた滝は雄大であった。
夕方は暗門の滝付近にある
日帰り温泉「アクアグリーン」

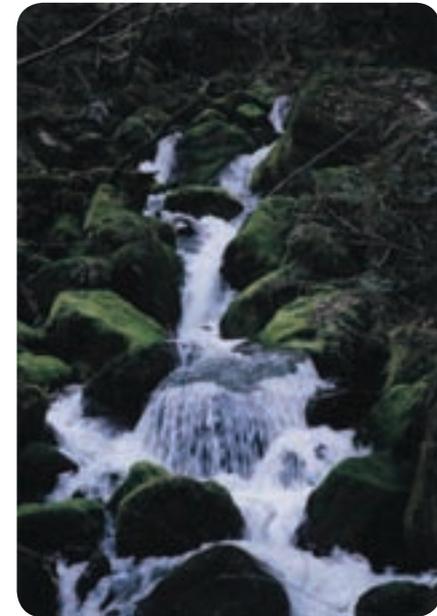
ビレッジ「ANMON」にて入
湯、駐車場の車内にて夕食を
取った。
一九九九年 八月八日
行程 一、六五二km
総計 二九、六一四km

[65] くるくまの滝 (青森県)

八五m

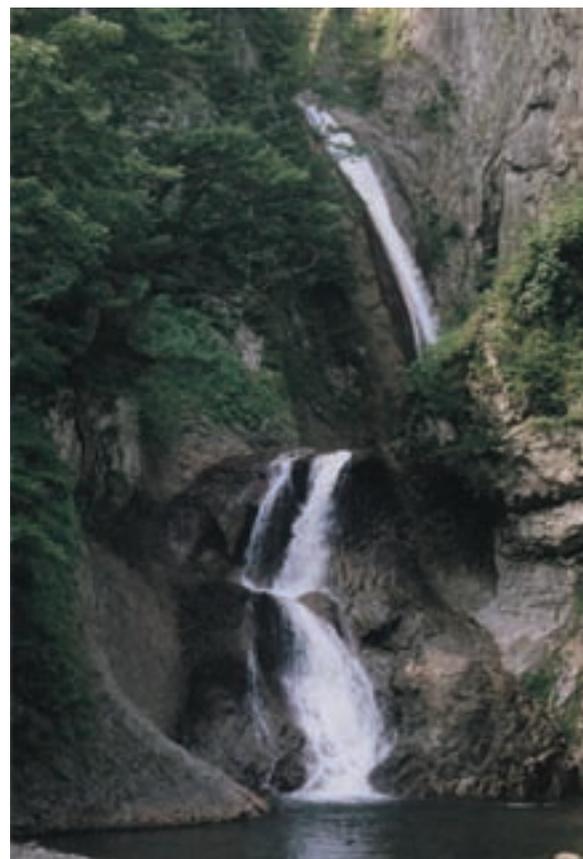
1998年度 行程表

観瀑日	100名瀑			工程km							
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
57	4	4	原不動滝	兵庫県	波賀町、揖保川水系		1,400		622	3	2,025
58	4	〃	天滝	兵庫県	大屋町、大屋川					3	3
59	4	〃	猿尾滝	兵庫県	村岡町、矢田川水系					2	2
60	4	5	雨滝	鳥取県	国府町、千代川					4	4
61	4	〃	神庭の滝	岡山県	勝山町、神庭川					3	3
62	4	30	金引の滝	京都府	宮津市、金引山麓				1,652	2	1,654
63	5	1	八ツ淵の滝	滋賀県	高島町、鴨川					6	6
64	5	2	姥ヶ滝	石川県	吉野谷村、尾添川					8	8
					1998年度計		0 1,400	0	2,274	31	3,705



1999年度 行程表

観瀑日	100名瀑			工程km							
	月	日	滝名	都道府県	市町・川名	飛行機	電車	船	車	徒歩	計
65	8	8	くろくまの滝	青森県	鯡ヶ沢町、赤石溪流				1,650	2	1,652
66	8	9	松見の滝	青森県	十和田湖町、黄瀬川					16	16
					1999年度計	0	0	0	1,650	18	1,668



〔66〕 松見の滝 (青森県)

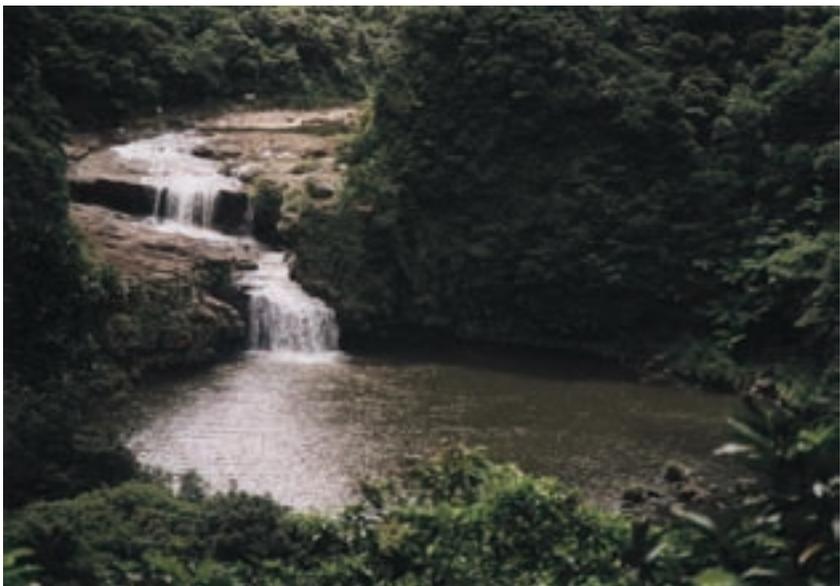
この滝は、徒歩でのアップローチはどこよりも長いであろう。気温は暑く、飲み水は底をつき脱水症状になってしまった。途中、帰途である若いカップルに出会った。女性

は滝壺をスッポンポンで泳いで来た、涼しかったと話していた。
滝は三段からなり、水量も多くみごとであった。

一九九九年 八月九日
総行程 一六km
計 二九、六三〇km

〔67〕マリユドウの滝（沖縄県）

二〇m



石垣島から高速艇で西表島まで行き、滝までは河を船で溯った。まさに日本のジャングルで、特に夜間の行動は無事が保障されないという雰囲気があった。イリオモテヤマネコにはもちろんお目にかかれず残念、看板の紹介をみて我慢。



二〇〇〇年 八月一四日
行程 二、一一二km
総計 三一、七四二km

〔68〕龍門滝（鹿児島県）

四六m



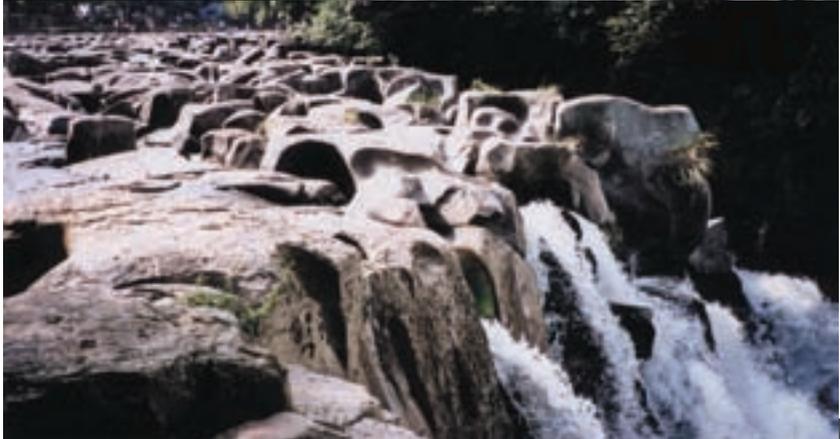
その昔、唐人が「漢土の龍門の瀑を見るがごとし」と賞したことから、この名があると伝えられているこの滝は、高さ四六メートルあり、岩肌を見せながら滝つぼにめがけて落ちるしぶきは豪快である。



二〇〇〇年 八月一五日
行程 一、二三七km
総計 三一、九七九km

〔69〕 関之尾滝（宮崎県）

一八m



滝の上流の河床は何千もの甌穴群から成り、その甌穴の間を庄内川の水は遊歩道から水面を見せずに流れる。

落ち口に立ち、上流の甌穴をぬって流れて来た水が滝壺に落ちて行く様は、溪谷の永い歴史を感じ、神秘的である。

二〇〇〇年 八月一日
行程 二km
総計 三二、九八km

〔70〕 鹿目の滝（熊本県）

三六m



球磨川の支流、鹿目川にあるこの滝は落差三六メートルで、屏風のひだを極細かくした様な柱状節理の岸壁を豪快に流れる。

流水の多い時、滝幅はみごとな姿を見せると言う。この時は右岸からだけの流身であったが、滝壺でのマイナスイオン浴は心が癒された。

二〇〇〇年 八月一日
行程 三〇km
総計 三三、二八km

作ってみたい方は
ここをクリック!

お気軽にメール下さい